平成24年4月5日

朝日新聞報道局長　福地献一　殿

財務省大臣官房文書課広報室長
瀧波　宏文

貴紙（平成24年4月5日付け朝刊）において、「民主党政権　失敗の本質①」と題する記事が掲載されています。

当該報道に関しては、当省幹部の氏名を引用されていますが、当該関係者は一切取材を受けておりません。記事の記載内容には、多くの事実誤認が散見されますが、とりわけ以下の点は明らかに事実と異なると考えられます。

「鳩山は総選挙直前、実は財務省の事務次官だった丹呉泰健や、主計局長だった勝栄二郎らとひそかに接触を重ねていた。」との記載がありますが、接触を重ねていたという事実はありません。

「野田佳彦は菅内閣で3代目財務相に昇格すると、財務官僚の仲介で自民党の財務相経験者と会合を重ねて政界屈指の『財務族』となり、11年の党代表選で消費増税に言及して勝利。」との記載がありますが、野田前財務相と自民党の財務相経験者との会合を、財務省職員が仲介したとの事実はありません。

「東大在学中から勝の友人である前国交事務次官の竹歳誠が就任。」との記載がありますが、勝財務事務次官と竹歳官房副長官は、卒業年次も3年異なり、学生時代全く面識がありません。

「消費増税と社会保障改革をまとめる内閣府の事務次官には、財務省で勝の1期後輩の松元崇が就いた。（略）異例の人事で、野田内閣は『財務省支配』と揶揄されるようになった。」という旨の記載がありますが、内閣府事務次官の人事については、内閣総理大臣の所管であり、財務省は全く関与しておりません。なお、これまでも各省庁出身者が大臣官房長等を歴任して就任していることからすれば、異例とは考えられません。

「政権交代直後の 09 年 9 月末、国家戦略相の菅直人はいらだっていた。マニフェストを実行するための財源確保にメドが立たず、予算の基本方針の作成が大幅に遅れそうだった。そこへ、財務省主計局長の勝栄二郎が現れた。菅が『いつまでに基本方針をまとめれば、年内に予算編成できるのか』と尋ねると、勝は『民主党にはマニフェストという立派なものがあります。これに沿って予算を作れ、という紙を一枚出していただければ、やりますよ』とささやいた。」との記載がありますが、鳩山政権発足時に既に自公政権時の概算要求が提出されていることについて、当時の菅国家戦略相に呼ばれて説明を求められた際、マニフェストに基づき年内に予算編成を行うのであれば、各省庁から一定の時期までに追加要求を出してもらう必要があるとの説明を行ったものであり、事実と異なります。

なお、記事中に「担当記者の私はまったく予想しなかった。」との記載がありますが、客観報道を旨とする新聞報道の記載としては如何なものかと思われます。

本件記事に関して、当省として貴紙に対し、読者に誤解を与えたことにつき、厳重に抗議するとともに、内容の訂正など然るべき対応を求めます。